

憧れの先輩たちが引退し、自分が最高学年に。卓球部の森さんと同じく必然的に部長となりました。彼女ともいろいろ話をしましたが、プレッシャーしかなかったです。憧れの先輩が、こんな気持ちで部長をやっていたんだと初めて気が付きました。最初はとにかく先輩が大切にしていた「温かい雰囲気づくり」を継続で。そんなとき支えてくれたのが、コーチや先生、そして後輩たちです。練習内容に困つていればみんなと一緒に考えてくれました。指示をした

バドミントン部に入部を決めたきっかけは、仲の良い先輩に誘っていただいたことでした。経験もなく、特別興味があつたわけでもありません。もし、他に選択肢があつたなら放送部に入つてみたかったです。それでも、先輩が真剣に取り組む姿や、後輩に丁寧に関わってくれる姿を見ているうちに、憧れるようになつていきました。そして、自分もバドミントンにのめりこんでいました。

憧れの先輩たちが引退し、自分が最高学年に。卓球部の森さんと同じく必然的に部長となりました。彼女ともいろいろ話をしましたが、プレッシャーしかなかったです。憧れの先輩が、こんな気持ちで部長をやっていたんだと初めて気が付きました。最初はとにかく先輩が大切にしていた「温かい雰囲気づくり」を継続で。そんなとき支えてくれたのが、コーチや先生、そして後輩たちです。練習内容に困つていればみんなと一緒に考えてくれました。指示をした

バドミントン部 部長 林 実花さん

インタビュー



▶ 根尾中学校 卓球部

絆 —今こそ、根尾だからこそ—

根尾中学校の部活動はバドミントンと卓球の2つ。ほとんどの生徒が、未経験からのスタートです。小規模校だからこそ経験できた3年間の部活動。そこは、競技力の向上だけでなく、人として成長できる場所でした。

そんな先輩方がいなくなり、自分が部長に。部長として何ができるか考え、真っ先に思い付いたのは、「先輩たちが大切にしてきたものを自分の代で終わらせてはいけない」ということ。とにかくどんなときも「声を出す」を大切にして活動することでした。少人数のため、団体戦が組めず、個人戦のみの出場でしたが、部の絆を大切にしたくて、積極的に声をかけ続けました。先輩・後輩という関係以上深い絆ができたと思っています。

今回のコロナの出来事で、部活だけではなく、学校の行事も全てがなくなり、目標を見失いました。それでも時間が経つ

につれて、「今までどおりできないなら、自分たちで新しいことを考えて生み出せばいい」と考えるようになりました。今の環境で、できる練習を、自分たちで考えることで、今まで以上に仲間と楽しく活動できるようになりました。そして何より、先生や保護者の方が、私たちのやりたいことが実現できるよう協力してくれました。これが本当にうれしく、感謝の気持ちでいっぱいです。「前向き・楽しむ」という思いをもつことで、新しいことを生み出せるということを学びました。

他にはない根尾中学校の良さは、少人数だからこそ深い絆で結ばれていること。学年関係なく、たくさん意見を出し合えるのは、どこにも負けない強みだと思っています。

高校で卓球を続けるかは考え中ですが、この3年間で身に付けた「自分の意見をしっかりと伝える力」を發揮して自分らしく頑張りたいと思います。

卓球部 部長 森 万阿さん

インタビュー

